

作成 2024年2月5日 伊東健児
(佐賀県スポーツ少年団本部長)

都道府県スポーツ少年団における運動部活動改革への取組や課題

・運動部活動と連携している単位団活動、市区町村行政とスポーツ少年団事例
◎小学生で卒団せず中学生・高校生まで活動を継続してほしい(これからの課題)
これからは「卒団式」「退団式」をやめる。

・地域(スポーツ協会・スポーツ少年団他)も中学校も同じ地域の中で、情報がお互いに理解されていないのが現状のようにみられます。

・学校にしてみれば、生徒が所属しようとする団体が適正な団体であるが、適正な指導者がいるかどうかなど、逆に地域では、部活動がそっくり地域へ降りてきて大変なのではという先入観が強いのではないかと考えます。

・このままでいけば従来行ってきた、部活動の指導者で進めるか、地域の団体で学校とのつながりの強い団体が受け入れていくべきであろうと考えます。

◎学校運動部活動の指導は、スポーツ少年団指導者が担うことが求められます。
スポーツ少年団に求められること

- ・収入の確保、指導者人材の確保(スタートコーチとしての資格)
- ・施設の確保(学校施設など…)

・地域スポーツクラブはこれから学校側との連携を強くする必要を感じます。
特にスポーツ少年団が学校側の理解を十分に得る必要を感じます。

昨年(2023)10月JSPOの会議での私の意見をJSPO本部長、事務局は快く受け入れてくれました。

・スポーツ少年団へ入団するかしないかは、中学生自身の判断によるものであり、生涯スポーツという考え方は、学校部活動の趣旨にも沿っていると考えます。スポーツを通して地域に貢献することも重要な一つです。

・中体連主催の大会への地域スポーツ団体の参加が認められつつあります。

・すでに部活という名称が消えつつあります。

・勝利主義への考え方、過ちをなくす。ただし、個人の勝利への考え方、文化は大切です。